

平成25年度 第6回「学校自己評価」調査結果

平成26年3月25日

実施方法

実施日 平成26年2月20日（木）調査用紙配布
平成26年2月26日（水）調査用紙回収期限
調査対象 本校専任・嘱託教員全員 46名
評価方法 4段階で評価
A：よくあてはまる B：ややあてはまる
C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

今年度の重点テーマ

【学 校 運 営】 地域社会から信頼される学校運営
【教 育 内 容】 生徒の実力の確実なレベルアップ
【生 徒 指 導 ・ 支 援】 懇切ていねいな指導
【教員研修 ・ 資質向上】 教職員の資質向上による教育の充実

分 析

A・Bを肯定的回答、C・Dを否定的回答とし割合を出し、本校の学校評価とします。アンケート結果を細かい数値ではなく、「校長による分析」という形で、下記のように公表します。この結果を設置者（理事長）に報告します。また、教職員全員で共有し今後の指導に生かし、よりよい学校作りに活かしていきます。

自己評価報告

■ 学校運営

私学の独自性

* 建学の精神（教育目標）について

〔設問〕建学の精神（教育目標）が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
47%	65%	66%	63%	72%	46%

* 愛校心について

〔設問〕教職員、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
49%	66%	68%	63%	65%	43%

【 評価と今後の目標 】

いずれの項目も、評価が大幅に下降した。昨年度から20ポイント以上の下降は、学校として教育活動を見直さなければならない大きな問題である。建学の精神（教育目標）「自立」「協調」「創造」を具体化した取り組みが出来ていないと考えざるを得ない。授業、成績評価・生徒指導・進路指導が高等学校の大きな柱であるが、各々の充実こそが建学の精神を支えるものである。学内の連携を強化して、教育目標の達成に尽力していきたい。

また「愛校心」については、年間を通じ懸念される事柄がある。大変恥ずかしいことであるが、一部の生徒が平気で校舎の壁紙を破ったり、ゴミを所定の場所以外に捨てたり、学校備品を壊したりすることが平素から多くなっている。この状態では学校を愛する心があるとは到底言えない。部活動や自らの進路を叶えるために頑張っている生徒が多い中、非常に残念なことである。平成26年度の大きな目標として、愛校心を育てる生徒指導を実施していきたい。かつ、我々教職員も、教育活動の充実を意識しなければならない。

◎生徒にとって理解しやすい授業を実施すること。

◎部活動などの課外活動に頑張る生徒をしっかりサポートすること。

◎方向性を見失っている生徒に適切な指導を行うこと。

卒業生、保護者、在校生のためにも学校を活性化させ、精華高等学校の社会的評価を上昇させていかなければならない。

教育課程

* 学習指導要領の対応状況

〔設問〕教育課程は学習指導要領に沿っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
92%	88%	89%	96%	84%	78%

〔設問〕年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
98%	92%	92%	96%	93%	91%

【 評価と今後の目標 】

平成20年度と比較すると教育課程・学習指導要領に関しては肯定率が下降している。文科省では、教育改革として教育課程・学習指導要領の見直しが進む中、本校でも新しい策定の必要性が問われているように思える。今後教務部を中心として、対応していかなければならない。また教科別の教育計画は、依然高い肯定率であるが、生徒が学習できる機会を増やすことを念頭に、推進していかなければならない。

教職員連携

* 教員・教科間連携状況

〔設問〕教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
71%	71%	72%	65%	77%	52%

* 教員と事務職員の連携状況

〔設問〕教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
59%	63%	49%	70%	58%	59%

* 会議の有効性

〔設問〕教職員会議をはじめ各種会議が、有効かつ効率的に機能している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
63%	71%	70%	55%	58%	39%

【 評価と今後の目標 】

良い教育活動のためには、教職員が組織的に活動を推進していかなければならない。本校の場合、コースが細分化しているため、この部分が脆弱である。各コースの生徒数に差があるため、生徒数の少ないコースでは、当然所属教員数も少なくなっている。学校行事の際や問題が発生した場合には、余裕をもったの活動や指導がなされにくい体制である。これが本年度における、最大の肯定率低下の原因であると思われる。生徒指導の観点から考えると、事後の指導より、事前の予防が大切であって、その為にも教職員連携の重要さと言うまでもない。

昨年度までの結果と同様に、有効的な会議を運営するためには、まだまだ工夫が必要である。学校における会議は、時間的に、どうしても準備不足となり、有効で発展的な内容が議論されるところまで出来ていない。また結果を反映するための会議が行われていない。あらゆる会議において、的確な議論が絶対に必要である。学校が抱える問題やテーマを明確にして会議を進めなければ、会議本来の意味がないと思われる。今のままでは教職員の負担が大きく、学校としての継続課題である。

財務関係

* 財務に関する意識

〔設問〕学校の経営指標と財務状況について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
41%	46%	36%	30%	49%	46%

* 評議員・理事会機能について

〔設問〕評議員会、理事会の役割や機能について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
30%	31%	23%	18%	14%	22%

【 評価と今後の目標 】

両項目とも依然として低い自己評価である。学校からも具体的な改善策が提示されておらず、また教職員の経営への関心も低い。ホームページの財務状況を見ても、専門的な項目が多くあり、理解が難しい。職務や年齢によって教職員の感覚はさまざまであると思うが、教職員全体に経営を考える機会が必要である。

情報公開

* ホームページの活用状況

〔設問〕学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
65%	56%	51%	69%	88%	78%

* 授業公開状況

〔設問〕保護者などへ授業を公開している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
84%	73%	74%	80%	84%	78%

【 評価と今後の目標 】

現行のホームページは、携帯電話等のタブレットには対応しておらず、平成26年度リニューアルする予定である。今以上に必要な情報開示の必要性も考えられ、見やすく、充実したものにすくために検討中である。

授業の公開については、本校の場合、行事予定に組み込んで保護者総会時などに実施している。また中学校教員を対象とした見学懇談会を行っている。肯定率は少し低下しているが、継続して公開授業を実施したい。また、教員内の研究授業の機会も増えてきている。内容の充実が必要である。

危機管理

* 役割分担について

〔設問〕 事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
86%	77%	70%	73%	84%	83%

* 危機管理対応状況

〔設問〕 危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とられている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
84%	83%	79%	60%	84%	63%

【 評価と今後の目標 】

国内では、大きな震災から3年が経過し、今でも人々の復興に対しての努力が続いている。本校でも、これを教訓としてとらえ、対処していかなければならない。現在、校舎の耐震調査が終了し、補修が必要な箇所の工事準備に入っている。教職員一人ひとりも、防災意識も高めていく必要がある。

この2月、大阪で大雪が降り、交通機関等が混乱した。本校では現在「大雪の際の規定」は決められておらず、難しい判断となり、保護者の皆様からも心配の声が上がった。単純に「台風の際の規定」と比べることは難しいが、規定を検討していきたい。また、有事の際に保護者と学校が連携するためにも、緊急発信メール等の情報の伝達手段が必要である。現在導入を検討している。なるべく早い時期に導入できるように努力したい。

また危機管理マニュアルの刷新が終了した。平成26年4月から施行したい。

開かれた学校づくり

* 地域交流について

〔設問〕 地域や地域住民との交流ができています。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
67%	73%	77%	79%	56%	57%

【 評価と今後の目標 】

環境福祉コースなどの取り組みが、もっと評価されても良いように思われる。地域の保育園・幼稚園、介護施設等との連携は、かなり推進できているように思う。現状、教員にとって、自分が所属しているコース以外の他コースの状況がわかりづらい環境にあることが問題である。またインターアクトや吹奏楽も積極的に交流をすすめている。地域自治会などからは、本校を評価する声は多い。

しかし反面、苦情等が多い現実がある。本校生の交通マナーや通学マナーに、多くの苦情が寄せられている。開かれた学校づくりのためにも、生徒指導をしっかりと実施していくことは、大切な課題であると思われる。

■ 教育内容

情報教育

* 情報能力育成

〔設問〕生徒の情報活用能力の育成を図っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
67%	65%	68%	72%	72%	44%

* 情報モラル指導

〔設問〕情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
59%	67%	60%	58%	67%	37%

【 評価と今後の目標 】

両項目とも、急激な下降である。対策を急がなければならない。情報・ITという名称のついたコースや教科があるにも関わらず、この肯定率の低下は、学校全体の問題として考え直す必要がある。しかし、先ほどの環境福祉コース同様、このコースと情報科も所属教員の数が少なく、成果が周囲に見えにくい欠点がある。本校の教育体制の基本は「コース制」であるが、今のままでは、学校全体としての活性化に不安が残る。

保護者評価では、約8割の保護者の皆様が現在の携帯電話規定に賛同していただいている。見えにくい部分の指導となるため難しい点が多いが、昨今SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を使った問題行動も多くなってきた。保護者の皆様とも連携して、問題発生防止に取り組みたい。

人権教育

* 研究体制

〔設問〕人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を、教員が研究する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
41%	50%	40%	49%	54%	41%

* 教育体制

〔設問〕人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
49%	54%	46%	43%	58%	41%

【 評価と今後の目標 】

いずれの年度も、人権教育への評価は低い。人権担当は毎年、生徒向けおよび教職員向けの研修企画を実施しているが、生徒に効果的な教育の形態そのものが難しく、評価されにくい項目である。今後も地道に活動を続けるしかないと思われる。また現実問題としては、多様化している生徒の状況に対応することが、非常に困難な面がある。人権担当・学習室・保健室・スクールカウンセラーとそれぞれの部署が連携しなければならない。

「いじめ防止」については、今年度大きな問題が表面化しなかったが、皆無というわけではない。学校としては、いつでも生徒の相談に応じることが出来るように、担当を4名用意しているが、更にこれを周知する必要があると考えられる。

環境教育

* 環境問題意識向上

〔設問〕 ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
43%	52%	64%	47%	56%	33%

* 実践的態度の育成

〔設問〕 生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
57%	58%	71%	57%	56%	54%

【 評価と今後の目標 】

非常に残念な結果となった。環境問題意識の急落は問題視しなければならない。現状として、学校全体でこれに取り組んでいるとは言い難く、この結果を踏まえて、どのような取り組みが実際に出来るかを検討したい。また清掃活動・校内美化については、平成22年度に、一度評価が上がったのみで、ずっと50%台の肯定的見解である。これには、前述したが、清掃活動や美化活動に直向きに頑張ってくれる生徒が居る一方、壁紙をはがしたり、汚したり生徒が存在する現実がある。学校として、壁紙を新しく貼り替えたりしなければならないことであるが、同時に心の指導をきっちりと行っていかなければならない。この項目の肯定的数字が100%に近づかない限り良い学校とは言えない。

健康・食育

* 健康・食に関する指導について

〔設問〕健康教育、食育などにも配慮している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
39%	42%	34%	23%	33%	33%

【 評価と今後の目標 】

平成24年度と同様の評価となった。本校にとって、もっとも弱い事項の一つに毎年あげられる。健康教育については、保健体育科・家庭科などの教科に委ねられており、教職員全体で取り組むという意識は薄い。また生徒・保護者の意見としては、食堂の充実が毎年欠かさず要望されており、改善しなければならない重要事項の一つである。現代は24時間いつでも弁当やパンが購入でき、便利になっている反面、生徒の体質や体力は低下し、病気や怪我に弱くなっている。昨年度ここで各家庭にお願いしたが、やはり弁当持参が最適であると思う。現在状況は把握できていないが、調査等が必要とも考えられる。

生徒会活動

* 生徒会活動支援状況

〔設問〕生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
59%	60%	53%	60%	67%	35%

【 評価と今後の目標 】

平成24年度も挙げさせていただいたが、生徒会に所属している生徒は、大変頑張っている。学園祭の企画運営・生活規律週間中の挨拶運動・入学試験時の補助等に励んでくれている。残念な数字になったが、生徒に責任はない。35%の肯定率という低い数字は教職員の意識を改善しなければならないと思う。生徒指導部に任せていないか、生徒会担当教員に全て任せていないか、じっくり考えて欲しい項目となった。残念である。

その他

* 読書推進

〔設問〕図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
27%	31%	36%	49%	46%	52%

* 部活動

〔設問〕部活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
83%	77%	87%	54%	61%	65%

* ボランティア

〔設問〕ボランティア活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
45%	56%	45%	55%	49%	41%

* 学校行事

〔設問〕体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
80%	79%	72%	67%	74%	74%

* スポーツ・芸術文化

〔設問〕スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
84%	79%	75%	62%	72%	61%

* 国際理解

〔設問〕他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
37%	40%	34%	11%	14%	9%

【 評価と今後の目標 】

本校にとっての「特色のある教育」に該当する項目である。いずれの肯定率も昨年度までと大きな変化はなかった。私学故に、どうしても高い水準を対象として自己評価されているが、各項目とも、伸長できていない。しかし伸びている私学は、必ずこれらの項目が発展している。活性化のためには、学校の明確な方針と、その方針のもとで生徒と教職員がともに助け合って、いろいろな活動を行っていかなければならない。

平成26年度、国際理解の分野に新しい試みを準備する。結果を見ても解るように、肯

定率が1桁となり、危機的状況である。平成25年度はコース別宿泊研修（修学旅行）を5年ぶりに海外研修に移行し、グアム・バリに出かけたが、生徒・保護者の皆様の感想は上々たるものであった。大学でも「グローバル・リーダー」の養成に力を入れている。今の時代、生徒の目を海外に向けさせる指導も重要である。今後本校の国際理解がどのように発展していくかに注目いただきたい。

生徒が学校に楽しんで登校できているか。生徒が学校に何を求めているかを把握しなければならない。本校の主な生徒学校行事は精華学園祭（体育の部・文化の部）、文化鑑賞（ビッグアイ）、校外研修・コース別宿泊研修（海外）、マラソン大会がある。また各コースでスポーツ大会や各種講習会を実施したりしている。どれも一定の成果があったと思えるが、部活動やボランティア活動の活性化等に課題が多い。

■ 生徒指導・支援

生徒指導

* 指導方針の一貫性

〔設問〕生徒指導は学校の方針に従っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
92%	96%	96%	90%	93%	78%

* 生活指導について

〔設問〕生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
90%	94%	90%	90%	88%	70%

* 家庭との連携状況

〔設問〕生徒指導において、家庭との連携ができている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
100%	90%	89%	94%	93%	91%

【 評価と今後の目標 】

残念なことであるが、生徒指導に関しての評価が低下した。指導方針の一貫性、生活指導の項目は例年高い水準の肯定率であったが、いずれも低くなっている。教職員の側からすると、全国的に影響を与えた「体罰」「自殺」「いじめ」の問題が指導を難しくしているのかもしれない。本校では、生徒指導を適確に行うことが、学校全体の評価の向上に繋がるという考え方が強い。この指導で手を抜くようでは、学校に未来はない。日々の指導に、熱意を持って取り組んでいる。前述した、コースの細分化による職員組織の連携不足

や指導が難しい時代を理由にせず、真摯な姿勢で生徒指導に取り組みたい。

また家庭との連携に関しては概ね連絡体制が確立されている。保護者による学校評価でも比較的よい結果をいただいている。今後は、連絡だけでなく、学校の方針を確実に保護者に伝え、かつ保護者の意向を聞き、指導に反映させていくように努力していきたい。

生徒支援

* 学習指導について

〔設問〕学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
77%	83%	79%	73%	79%	65%

* カウンセリング体制

〔設問〕カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用ができています。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
69%	75%	68%	65%	86%	63%

* 進路指導について

〔設問〕生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
77%	81%	77%	83%	72%	61%

【 評価と今後の目標 】

いずれの項目でも評価が10ポイント以上下がっている。学習指導・進路指導は私学としての根幹である。生徒支援が60%台の肯定率では、良い学校とは言えない。今年度、本校の授業に対して、生徒や保護者の皆様より多くの要望が出された。教員の熱意、スキルなどについての要望や教員間に差異があるといった意見を頂いている。「私学は塾いらず」という認識が保護者の皆様にはある。これに応えるためには、授業に対して、しっかりした準備を行い、わかりやすい授業を展開していく必要がある。平成26年度は「開かれた授業」を目標として立て直しを計りたい。

進路指導については、多様化する入試制度の中で、生徒自身が努力や苦勞を問われない入学方法を選択するようになってきている。進路指導部もイベントをたくさん企画し、生徒の進学意識を向上させることを推進しているが、AO入試や指定校推薦に頼る現実である。これらの入試方法が悪いというわけではないが、学校としては、一人でも多くの生徒が、

日々の講座に参加し、努力し、勉強して目標以上の進学先に入学して欲しいものである。「入学できる学校」を選択するのではなく「入学したい学校」への受験を増加させたい。こういった生徒のサポートを進路指導部を中心として実施していかなければならない。

■ 教員研修・資質向上

教員研修

* 教員の資質向上について

〔設問〕 教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
20%	23%	28%	47%	58%	61%

* 校内研修

〔設問〕 効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
25%	48%	41%	54%	75%	63%

* 初任者のサポート状況

〔設問〕 初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
22%	33%	29%	49%	58%	44%

* 校外研修

〔設問〕 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
43%	43%	39%	44%	51%	33%

* 研修成果の共有状況

〔設問〕 研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
16%	19%	25%	23%	30%	22%

【 評価と今後の目標 】

平成25年度から、新しい職員研修として、専任15年目（中堅者）研修を実施した。研究授業・外部講習会参加（私中高連主催）・課題提出および自己評価を5人の先生方にこなしていただいた。また初任者研修は、専任3年目までの先生方に、研究授業等を実施していただいている。平成25年度は、8月に実施した教職員全体の研修も一定の評価を得られた。しかし、依然として、研修に対する肯定率は低い。これには、教職員の意識の中に、研修をさせられているといった感覚があるように思う。教職員の中には、積極的に外部の教科講習会などに参加される方も増えているが、思うように時間がとれない中、研修を無駄だと思つ方もおられるのではないだろうか。しかし教職員にとって、経験の多少に関わらず、学習する意識は必要である。新しい知識を得ることが、生徒のためになり、自分自身の為になるはずである。今後も意味のある研修を継続して実施していきたい。

総合評価

今年度の調査では、どの項目も非常に厳しい結果となった。教職員の自己評価として、学校内部から見た学校全体は、決して充実した教育活動が出来ていないということである。全39項目中、31項目での評価が前年度から肯定率を下げる結果となっている。特に、10ポイント以上のマイナス評価となった項目が21項目もあった。同時に行った保護者評価とは完全に逆の結果となっている。保護者評価では、当然厳しいご意見があったものの、本校の教育方針や先生方の熱意にご理解いただく声が多くあったが、学校自己評価では、現行の教育方針や活動に満足している教職員が少ないことが分かった。男女共学に移行した年より16年が過ぎ、抜本的に教育活動を見直す必要があるということである。また改善しなければ、本校には将来がないということである。

平成26年度は、根幹である「授業」「講座」を見直して、生徒が学習できる環境を整えたい。更に生徒が基本的な生活習慣を身に付けることが出来る指導を実施し、教職員自身にとっても、指導しやすい組織・環境の構築を目指していきたい。

※ 調査結果の%表示については、すべて小数点以下を四捨五入した数値であ

学校評価委員会構成

学校長 教頭 教務部長

生徒指導部長 進路指導部長 事務長

以上6名